

実践事例「電子図書館を活用した特色ある子供読書活動の推進」 (立川市図書館)

立川市図書館では、令和3年1月から「たちかわ電子図書館」を開始しました。図書館に足を運ばなくても読書を楽しむことができるようになり、コロナ禍による非来館サービスとして注目され、使い勝手の良さから普及していきました。児童・生徒の利用については、令和3年9月にGIGAスクール構想で市立小・中学校の全児童生徒に整備された一人1台端末のブックマークリストに「たちかわ電子図書館」を登録し、利用者IDの登録作業を済ませた電子図書館専用の利用カードを配布したことで、大きく利用が増加しました。学校の朝礼前の読書時間「朝読書」において、電子書籍の活用がなされています。



学校用 たちかわ電子図書館利用カード



電子書籍を活用した「朝読書」活動

授業時間における活用

- 授業時間における活用については、教師と児童・生徒が同じ電子書籍コンテンツを利用する上で、同時貸出数の制限が課題でした。
- そこで、令和4年6月に同時アクセスや閲覧人数に制限のない「児童書読み放題パック」300点を購入し、調べ学習等での活用が可能になりました。読んだ本の読書感想を授業で取り上げ、クラス全員で共有し学習に活かす取り組み事例も見られています。

電子図書館の利用増に向けた工夫

- 電子図書館では、魅力的で注目を引くトップページづくりや特色のあるコンテンツの選書も重要です。
- トップページは、明るく見やすく親しみやすくをコンセプトにしており、民間事業者や出版社と連携を図りながら作成しています。コンテンツは、市内の企業、社会奉仕団体、個人から寄贈していただき、様々なジャンルから選書しています。
- さらに、民間事業者からは、チラシ・ポスターのほか、利用案内パンフレットを制作していただき、館内掲示や利用者配布を行うなど利用促進に努めています。



チラシ・ポスター



電子図書館トップページ画面

魅力ある電子図書館づくりと民間連携

「たちかわ電子図書館」は3年が経過した今も、貸出、閲覧数は減少に転じることなくその水準を維持しています。その大きな要因である民間事業者からの費用負担は、電子書籍コンテンツを充実させ、魅力ある電子図書館づくりの支えとなっています。また、一人1台端末を活用した読書活動は、児童・生徒が本に触れる機会を増やし、学ぶ意欲や学力向上に結び付ける役割を担っています。今後も、児童・生徒が授業や課外活動、自宅等で活用できるコンテンツを取り揃え、読者を飽きさせない、離さない電子図書館運営を目指していきます。

取組の成果

- 学校や自宅(家読:うちどく)での電子図書館利活用が進み、読書に費やす時間が増えています。
- 民間事業者との連携により、魅力的なコンテンツの提供が充実しています。
- 読み放題コンテンツの拡充により、先生と児童・生徒が同じ本を同時に読むことができ、課題授業や調べ学習に活用されています。

課題など

- 公共図書館向けに電子化し販売される電子書籍は限られており、価格も高い傾向にあります。図書館向けに販売される本のバリエーションが増えること。また、複数同時貸出(複数ライセンス)や有期限(2年または52回で権利が消滅)などが柔軟に運用されることを望みます。
- 多様性が求められる時代だからこそ、児童・生徒に電子書籍が読める環境を整えてあげる必要があると考えています。「紙と電子は車の両輪」が立川市図書館のスタイルです。